

全視情協通信 / な い - ぶ	1998 / 1 / 27
<b>NAIIV</b>	<b>No. 18</b>
発行	発行責任者 川越 利信
<b>全国視覚障害者情報提供施設協議会(全視情協)</b> (社会福祉法人 日本盲人社会福祉施設協議会 情報サービス部会)	
事務局 〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-13-2 日本ライトハウス盲人情報文化センター内 Tel. 06 - 441 - 0015 Fax. 06 - 441 - 0039 E-mail: HBD00035@niftyserve.or.jp	

## 主 な 内 容

- 企画委員会報告(川越 利信) ..... 1
- デジタル録音図書貸出サービス開始と普及活動(池田 防守) ..... 6
- 視覚障害者へのよりよい情報サービスに向けて  
-- てんやく広場の現状と今後 -- (後藤 健市) ..... 8
- 【施設紹介】北海点字図書館(後藤 市郎) ..... 9
- 第16回音訳指導技術講習会 報告 ..... 11

## 企画委員会報告

委員長 川越 利信

企画委員会では事業計画等について下記の通り合意し、運営委員会に提案することになりました。追加事項・ご意見・提言等がございましたら事務局までお寄せください。

日 時 平成10年1月19日(月)~20日(火)  
場 所 日盲社協事務局(東京都失明者更生館)  
出席者 川越利信、後藤市郎、藤野克己、田中徹二、小野俊己、染谷洋子、  
河合和美、村井晶人

## 1 運営基準改正について

NAIIV第17号に掲載の、改正基本5項目に沿って進めていく。

「現行枠組において即時対応の必要な対策」に、(3)として以下の項目を追加する。

「(3) 視覚障害者情報問題研究委員会の設置・運営」

改正案(第3次案)の素案作りは、以下の4氏で作業を進める。

小口継明氏(神奈川県ライトセンター 所長)

盛田義弘氏(石川県視覚障害者情報文化センター 所長)

田中徹二氏(日本点字図書館 館長)

川越 利信(日本ライトハウス盲人情報文化センター 館長)

「改正にあたっての基本的姿勢」については第2次案の(2)をベースにする。

つまり、図書製作・貸出等にとどまらず、視覚障害者福祉センター的役割をも検討の範囲に加える。

設備については、「聴読室」は「閲覧室(聴読室)」に包含し、「録音制作室」を「音声情報制作室」とする。また、「サービス・施設利用上、必要な機材」を明記する。

平成10年2月末をめどに第3次案の素案作りを終える。

## 2 平成10年度基本方針

長期(6か年)基本事業計画による、平成9~10年度テーマ「視覚障害者情報提供施設の役割・機能の抜本見直し」に基づいて活動する。

(詳細については後日報告)

## 3 平成10年度全視情協大会(長崎大会)について

日 時 平成10年10月14日(水)~16日(金)

会 場 ルークプラザホテル

〒852 長崎市江の浦町427-1

TEL 095-861-0055

FAX 095-861-8800

大会事務局 長崎県立点字図書館

〒852 長崎市茂里町3-24 長崎県総合福祉センター内

TEL 095-846-9021

FAX 095-843-4589

## プログラム(案)

10月14日(水)	
10:00~12:00	運営委員会
12:30~13:30	受付
13:30~14:20	開会式
14:30~17:00	分科会 第1分科会 点字情報 - 視覚障害者情報管理システム - (実習) 視覚障害者情報管理システムの学習会 担当: ネットワーク委員会 第2分科会 音声情報 - デジタル録音システム - (実習) デジジーを核としたシステムの説明 担当: 録音委員会
17:00~18:00	チェックイン、休憩
18:00~20:00	夕食(懇親会)
10月15日(木)	
9:00~12:00	全体会1 「障害者福祉の動向と課題」 障害者福祉を大局的視点で据えて、大きく変わろうとしている 社会福祉事業の流れを把握する。 講師(予定): 板山賢治氏(日盲社協理事長) 林 民夫氏(厚生省障害保健福祉部企画課長) 担当: 企画委員会
12:00~13:00	昼食・休憩
13:00~14:50	施設長会議(全員参加) 社会福祉事業ならびに情報環境が大きく変化する中で、視覚障 害者情報提供施設の役割とあり方を考えるにあたり、施設長だ けではなく、大会参加者全員が参加して共通認識を持つことが 大切な時期である。
12:00~14:50	機器展示説明会
15:00~17:00	全体会2 「運営基準を考える」 担当: 運営基準改正素案作成者
18:00~20:00	夕食(各自)
18:00~20:00	企画委員会
10月16日(金)	
9:00~11:00	全体会3 「視覚障害者情報提供施設の役割とあり方を考える 今後の行動目標の確認」 担当: 企画委員会
11:00~11:30	全体会(報告) 2日間にわたって行われた分科会・全体会等の報告を行う。
11:30~12:00	閉会式・解散
13:00~15:00	学習会(自主参加) (詳細は未定)

## 4 視覚障害者情報問題研究委員会について

目的：高度情報社会における視覚障害者情報提供施設の役割について、広く関係者の意見を集め、よりよいあり方を模索することを目的とする。

委員（交渉予定）は次の通り。

視覚障害者情報問題研究委員会 委員名簿（案） （\*は 専門委員）

	氏名	部門	所属
	板山 賢治	団体	日本盲人社会福祉施設協議会（日盲社協）理事長
	村谷 昌弘 （全盲）	団体	日本盲人会連合 会長
	林 正義	盲学校	全国盲学校長会 会長
	五十嵐光雄	リハビリ	日盲社協 リハビリテーション部会長 光友会 理事長
*	岩上 義則 （全盲）	出版	日盲社協 出版部会長 日本点字図書館 出版事業部長
*	川越 利信	情報	全視情協 会長・日盲社協 情報サービス部会長 日本ライトハウス盲人情報文化センター 館長
	後藤 健市	情報	てんやく広場 運営委員長 北海点字図書館 副館長
*	木塚 泰宏 （全盲）	学識経験者	国立特殊教育総合研究所 視覚障害教育研究部長
*	河村 宏	デジタル録音	日本障害者リハビリテーション協会 企画研究部次長
*	河野 康德	学識経験者	昭和女子大学 生活文化学科 教授
	福島 智 （盲ろう）	利用者	金沢大学 助教授
	石川 准 （全盲）	利用者	県立静岡大学 助教授
	長岡 英司 （全盲）	利用者	筑波技術短期大学 情報処理科 助教授
*	坂本 洋一	国リハ	視覚障害リハビリテーション協会 会長 国立身体障害者リハビリテーションセンター学院 教官
*	藤野 克己	情報	全視情協 副会長・日盲社協情報サービス部会 副副会長 視覚障害者生活情報センターぎふ 館長
*	田中 徹二 （全盲）	情報	全視情協 副会長・日盲社協情報サービス部会 副副会長 日本点字図書館 館長
	酒川 玲子	公共図書館	日本図書館協会 事務局長
	三友 敬太	厚生省	厚生省 大臣官房 障害保健福祉部 企画課 社会参加推進室長

## 5 その他

社会啓発用入門書の作成（点訳・音訳）

点訳・音訳の初心者向けに、また社会啓発を目的として、「点訳のてびき」、「活動するあなたに（視覚障害者用録音図書づくりのためのレコーディング・マニュアル）」の入門編作成に着手する。

「点訳入門（仮題）」担当

藤野克己氏（視覚障害者生活情報センターぎふ 館長）

細川啓子氏（石川県視覚障害者情報文化センター）

「音訳入門（仮題）」担当

河合和美氏（名古屋盲人情報文化センター）

恵美三紀子氏（JBS日本福祉放送 代表）

入門書については専門学校等からのニーズも高いので、3月中に入稿予定で作業を進める。

てんやく広場特別委員会について、特別委員会から常設委員会への移行を検討全視情協として、より積極的に「てんやく広場」に取り組んでほしいという要望のもと、現在各ブロックでヒアリングを進行中。

次回の企画委員会にはてんやく広場運営委員長の後藤健市氏（北海点字図書館 副館長）にも出席を求めて、ともに検討する。

## 今後の予定

企画委員会 3月9日（月）～10日（火）（場所：東京都失明者更生館）

運営委員会 3月25日（水）15：00～（場所：東京都失明者更生館）

日盲社協 理事会 3月26日（木）10：30～

日盲社協 評議員会 3月26日（木）13：45～

（場所はともに東京都失明者更生館）

## 施設移転のお知らせ

群馬県立点字図書館（平成10年1月末より）

新住所 〒371-0843 前橋市新前橋町13番地の12

群馬県社会福祉総合センター3階

TEL 027-255-6567

FAX 027-280-4103

# デジタル録音図書貸出サービス開始と普及活動

デジタル音声情報システム促進委員会専門委員会の

今年の活動計画に関して

デジタル音声情報システム促進委員会

事務局長 池田 防 守

## 1. 概要

いよいよこの4月から、デジタル録音図書の貸出サービスとデジタル録音図書読書機の発売が開始されます。昨年前半の日本を含む世界32ヶ国でのフィールドテストの結果を踏まえて、8月に国際標準が確立しました。これに基づき、直ちに、DAISY録音編集ソフトの新版（新バージョン）の開発とデジタル読書機の量産機種開発が本格化し、この4月、これら開発作業が完了し、日本と海外マーケットに供給される予定です。

## 2. 録音編集ソフト DAISY 2.0版（バージョン2.0）

従来のDAISYソフトはスウェーデン国立点字録音図書館で開発され、フィールドテスト用ソフト製作関係者に無償で提供されてきました。使用した世界の各機関からは改良要望が出され、その内容審議と開発費用の負担、さらには開発請負会社選定などが国際開発機構（コンソーシアム）で幾度となく話し合いがなされてきております。

ソフトの最終版（DAISYプロバージョン）は先になります。この4月にはDAISY 2.0版（バージョン2.0）が出荷提供（リリース）される見通しです。このバージョン2.0は板山日盲社協理理事長が副会長をされている（財）日本障害者リハビリテーション協会が、今回厚生省より委託を受け構築している障害保健福祉研究情報システムの音声情報システム用ソフトで、従来のDAISYをより使いやすく進化させたものです。

## 3. CD録音図書貸出、4月開始

視覚障害者ユーザから要望の強いデジタル録音図書あるいは情報を、評判のよいものから少しずつサービスを開始してみようという、いくつかの機関グループが、4月から実際に貸出を開始する見通しです。一気に大量に提供するのは無理ですが、まずは製作ノウハウの蓄積、デジタル図書に関するユーザ要望をいち早く把握し、サービス内容を高め、確認し、その後、図書の種類、量を増やすという手順を踏む計画をたてています。機材の確保も進み、勉強会や研修も本格化してきます。当然のことですが、どのグループもやる気は満々ながら、苦労は承知、不安いっぱい船出のようです。

## 4. CD録音図書読書機（プレクスター）も4月新機種発売

CD読書機を開発を世界に先駆け推進してきたプレクスター/シナノケンシから、新

機種が4月に発売されます。当初は前受注の限定販売になる予定のようです。フィールドテスト用機種よりもふたまわり小型軽量化され、ユーザアンケートにもとづき、操作手順もわかりやすくする改善改良が随所になされ、充電可能なバッテリーもオプションで用意される予定です。当初から機能がシンプルなものとフル検索機能までの2モデルになる予定です。アンケートの結果から、日本国内では当初、フル機能モデルのみとなります。小説など図書の構造・階層がシンプルな録音図書が視覚障害者情報提供施設から貸し出されるようになった段階で、シンプル機能の要望がでてくるものと思われます。

## 5. デジタル音声情報システム促進委員会専門委員会の拡充

促進委員会の承認に基づき、デジタル録音図書の普及、特に、デジタル録音図書の貸出可能蔵書を増やすため、新規デジタル図書製作、従来のマスターテープのデジタル変換、さらにはデジタルならではの新しい録音図書・情報の開発を研究実用化する目的で、専門委員会が拡充されます。専門委員会は促進委員会の指導のもとで、全視情協録音委員会と提携しながら録音図書のデジタル化の研究開発評価を担ってきました。DAISYソフトの評価、フィールドテスト用デジタル録音図書の製作、フィールドテストの実施集計報告と、促進委員会の実行部隊として多くの苦勞を重ね世界をリードしてきました。

前回の促進委員会での方針をもとに、今後はデジタル録音図書の実用化と普及に軸足を移し活動することになりました。普及という観点から、ユーザの生活行動に関わる多くの機関グループと力を合わせ活動する必要があります。このため専門委員会を目的別小委員会に分け、全視情協委員を中心に、ユーザである視覚障害者も参加し、促進委員関連機関・団体から参加委員を増やし、強化拡充します。以下がその概要です。

促進委員会（板山賢治委員長）

専門委員会（河村 宏委員長）

（1）技術小委員会（天野繁隆委員長）

デジタル録音編集ソフト（DAISYソフト）の仕様性能確認、使用ノウハウの蓄積、関連機材情報・製作変換システムの研究

（2）図書製作小委員会（河合和美委員長）

視覚障害者が読みやすく、わかりやすく、さらに音訳編集しやすいデジタル録音図書製作の研究およびガイドライン・マニュアルづくり

（3）図書開発小委員会（田中章治委員長）

デジタル録音図書読書機で読む、欲しい本・欲しい情報をリストアップし、製作可能性研究・製作・評価し実用化する

（4）国内フィールドテスト小委員会（村井晶人委員長）

必要なフィールドテストの計画・実施・解析

事務局（池田防守事務局長）

なお委員名簿、研修会スケジュール、DAISYソフトに関しては次回ご報告します。

# 視覚障害者へのよりよい情報サービスに向けて

## てんやく広場の現状と今後

てんやく広場運営委員会

(日盲社協情報サービス部会 特別委員会)

委員長 後藤 健市

### (1) 「てんやく広場」発足10周年

「てんやく広場」が発足して、すでに10年の時が過ぎました。最初の年は関東・関西・中部ブロックから10のプリンティングセンターが参加し、2年目には中国・四国ブロックと九州ブロックが参加、3年目の90年に東北・新潟・北海道ブロックが加わり、ブロック単位としては一応全国を網羅したわけです。この時点でのプリンティングセンター数は41、点訳タイトル数も990となっていました。その頃を振り返ると、とりあえずプリンティングセンターとして参加したものの何がどうなっているのかよくわからないまま、しかしその可能性だけは自分の中で日に日に大きくなりながら進んでいたように思います。

田村委員長のもと、私自身も運営委員として参加をさせていただいていましたが、まさか後に自分がこの重責を担わなければならなくなるとは一切考えず、気軽に好きなことを言わせていただき、好きなことをやらせていただいていた。

あれから7年。ネットワークの環境は大きく変化してきました。もちろん「てんやく広場」も進化を続け、今ではプリンティングセンターも70に増え、点訳データも1年間になんと5,000タイトルも登録されるまでになっています。この成果の裏には運営に携わってきた方々の日夜を問わない活動があったことを今改めて感じるわけですが、いずれにしてもせっかく蓄積された点訳データを、さらには点訳データの利用以外の「てんやく広場」の機能をうまく使いこなしていくことが視覚障害者への情報提供を行っている施設に求められていることだということを実感しています。

### (2) いま、転換期

ネットワークの参加施設(者)の増加と機能の拡充に伴い、「てんやく広場」は今、ひとつの転換期を迎えています。そしてそのことが97年度の事業計画として掲げられた「基本構想の策定」に表れており、その事業計画をもとに運営委員会の主な活動として21世紀に向けた「てんやく広場」のあり方を検討しているところであります。

### (3) 情報サービスの要

「てんやく広場」はこれまで、世界的に見ても先駆的な取り組みを行ってきました。特に、ユーザーである視覚障害者が自分で目録を検索し、直接データを入手できるようにしたことは、一方では運営面において大きな負担が生じたものの、新時代の情報サービスを具体化した評価すべき取り組みであったと思います。さらに各視覚障害者情報提供施設が貸出ツールとして活用している点字図書・録音図書の全国総合書誌目録(A B 0 1)をネットワーク上で検索可能にし、これに関連して検索後の貸出依頼作業もその



ままネット上で行うオンライン・リクエストも、試行段階ではありますが、視覚障害者情報提供施設が長年にわたり検討してきた機能でありました。現在、これらの機能を使いこなしている個人や施設はまだまだ限られていますが、使えば使うほど、なくてはならないものになってきてしまうという現場からの声が上がってきています。

#### (4) 利用者へのよりよいサービスこそが使命

確かに「てんやく広場」の機能を使うことが視覚障害者への情報サービスを行う点字図書館等の施設にとって仕事そのものであるにも関わらず、本来の仕事とは関係ない余計な作業が加わってきたかのような誤解が生じていたことも否定のできない事実であると思います。そのことによって、それぞれの施設の利用者が本来得ることができるはずのサービスを得られていないということを、私たちは自分たちが解決できる問題として真剣に考えなければならないと思います。

「てんやく広場」はすでに93年(平成5年)4月から全視情協ならびに日盲社協情報サービス部会の特別委員会という位置づけがなされているわけですが、組織図上の問題だけではなく、意識面においての位置づけも再認識していただくことによって、この誤解を解消していかなければならないと考えています。

利用者のために組織があり、その組織で働く人がいます。私たちは組織のために働いているのではなく、利用者のために働いているはずです。今回、「てんやく広場」の基本構想の策定に携わり、日常の業務に追われているうちにいつの間にかそんな当たり前のことを忘れてしまっている自分に気づかされました。そしてその気づきを今後の「てんやく広場」を考える議論に反映していきたいと考えています。

### 施設紹介

## 氷点下20度の地域にある視覚障害者情報提供施設

-- 北海点字図書館 --

北海点字図書館

館長 後藤市郎

十数年ぶりに本格的な寒さが到来し、部屋が暖まるまで仕事にならないという日々を過ごしている「北海点字図書館」の紹介をさせていただきます。北海道ではすごく寒いことを「しばれる」といいますが、「しばれる」という言葉以外では表せない寒さが続いています。

さて、点字図書館の方々には「ほくてん」と呼んでいただいている我が北海点字図書館ができたのは今から49年前。すでに大阪には日本ライトハウスがあり、東京には日本点字図書館がありましたが、地方都市では初の点字図書館として、全国でも3番目の点字図書館としてスタートしました。ということは、来年で記念すべき50年目の年になります。せっかくだから何か節目にふさわしい事業をやりたいなと考えておりますが、

まだ今のところは未定です。皆様の所で何かいいアイデアがありましたらぜひ教えてください。

それでは「ほくてん」の事業紹介に入ります。点字図書館としての基本的な事業はこの場で改めて説明する必要はありませんので、ユニークな事業について書かせていただきます。まずは昭和40年から行っているテープによる通信指導です。これは毎月発行するテープを通して聴読者に指導をしていくというものですが、英語教室などすでになくなってしまったものもありますが、現在も「北海ジャーナル」「詩吟教室」「箏曲教室」の3つを発行し、全国の利用者の方々に提供しています。「北海ジャーナル」では肥後秋晴子先生と前田吉徳先生にご担当をいただいている声の文芸コーナーで短歌と俳句の指導（選評）を行い、また「詩吟教室」では帯広に在住の伊藤岳峯先生によるテープ指導を行い、年に一度は日本岳峯会の資格認定も行っています。「箏曲教室」では盲人箏曲家として活躍されている多くの先生のご協力をいただき、それぞれの先生のオリジナル曲などをテープを通して指導していただいています。

この他に数年前から、「視覚障害者とかち体感ツアー」という取り組みを始めました。これは全国各地で元気に活躍している視覚障害者の方々に「ほくてん」のある十勝の大地を味わい、大いに楽しんでもらおうというものです。これまでに5回ほど開催し、季節ごとにいろいろな取り組みを行ってきました。せっかくですのでこれまでに挑戦したことを書かせていただきます。ソーセージ作り、アイスクリーム作り、乗馬、カヌー、パラグライダー、釣り、アイススケート、キャンプ、砂金すくい、スノーモービル、パラセーリング、カート等です。真冬の湖上露天風呂というのもありました。春、夏、秋、冬のそれぞれの季節を楽しみながら、季節のうまいもんを食べながらのプログラムです。興味のある方はお気軽にお問い合わせください。

これ以外に今年の5月からカラーの点字板を販売しています。「せめて名前だけでいいから点字を覚えてみませんか」という運動を展開していくために作ったもので、晴眼者用の点字板ですが、視覚障害者の方にも使っていただいています。5行17マスで、プレートに点筆が収納できるのが特徴です。色も世間一般で流行している半透明のきれいなものになっており、一見おもちゃのように見えますが、素材はしっかりしていますので長く使ってもらえるものになっています。ボランティア講座などにお使いいただくのにはとても便利です。すっかり宣伝になってしまいましたが、こちらの方も興味のある方はお問い合わせください。

昭和24年、ヘレンケラー女史の来道を記念して北海道の地に植えられた「ほくてん」の芽が、地域の特性を活かしながら大きく育ち、すでにいくつかの実をつけさせていただきました。今後もさらに多くの実を实らせることができるよう努力を続けていきたいと思えます。

最後になりましたが、昨年9月に当地で開催されました全視情協の大会に多くの方が参加していただきましたこととお礼申し上げます。

それにしても寒い日が続きます。体には気をつけましょう。

# 第16回 音訳指導技術講習会 報告

(第2回音訳指導員技術講習会)

録音委員会

- 開催日 平成9年11月25日(火)～11月27日(木)
- 会場 新大阪シティプラザ
- 担当 日本盲人社会福祉施設協議会 情報サービス部会  
全国視覚障害者情報提供施設協議会 録音委員会
- 内容
- 11月25日(火)
- 講義1 「盲人福祉概論」 鶴見朝子氏  
(日本ライトハウス視覚障害リハビリテーションセンター)
- 講義2 「点字図書館概論」 工藤孝雄氏  
(日本ライトハウス盲人情報文化センター)
- 講義3 「音訳者養成法」 恵美三紀子氏  
(JBS日本福祉放送 代表)
- 11月26日(水)
- 講義4 「音訳者評価法」 河合和美氏  
(名古屋ライトハウス名古屋盲人情報文化センター)
- 講義5 「録音・編集技法」 姉崎久志氏  
(神奈川県ライトセンター)
- 講義6 「調査技法」 山本晴代氏  
(大阪府立中央図書館)
- 11月27日(木)
- 講義7 「処理技法」 清水賢造氏  
(日本ライトハウス盲人情報文化センター)
- 講義8 「校正技法」 久保洋子氏  
(日本ライトハウス盲人情報文化センター)

## 実施結果

社会福祉法人日本盲人社会福祉施設協議会 情報サービス部会主催、「第16回音訳指導技術講習会」を平成9年11月25日～27日の3日間にわたって、上記の通り実施した。本年度はボランティアの受講を開始したため、定員70名に対して80名の申込みがあった。会場の収容能力に余裕があったため申込者全員を受け入れた。

今回の受講の結果、昨年度よりの認定対象受講者には、課題・レポートの提出の結果を選考の上、認定証をお渡しすることになる。また、残りの方に対しては受講修了証をお渡しし、次年度以降の単位として認定を行った。

講義内容は、基本的には前年と同様のものではあったが、昨年までの講義内容の重複を整理したため、昨年度よりもまとまったものとなった。活動経験年数により個人差はあるが、参加者へのアンケート結果によれば、内容的に充実しているとの声が大部分を占め、概ね当初の目的は達せられた。

次年度以降は、参加者個々人に指導力をつけていただくことを目的とした内容に改め、さらに技術向上と音訳の普及を図る予定である。

# 衛星放送でテレビ・ラジオ放送開始！



視覚障害者の情報保障のために専門のラジオ放送を続けて10年。  
平成9年12月、衛星放送でテレビ放送を開始いたしました。

## 特長1 障害者への情報支援と、社会への啓発情報を発信

障害福祉関連情報、就学・就業、医療、スポーツ・レジャー、  
各種ボランティア講座など、障害者に役立つ情報、障害者をもっと  
理解してもらうための情報を提供します。

## 特長2 キャプションの付加で情報障害者も利用できます

字幕、手話、音声解説、点字解説などを付加し、視・聴覚障害者も  
利用しやすい放送をめざしています。

■現時点でJBS日本福祉放送をご利用いただける衛星デジタル放送

・ディレク・ティービー (テレビ・ラジオ)

・パーフェク・ティービー (ラジオ)

その他、各地のCATVにも順次配信予定

### お問い合わせは

大阪スタジオ 〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-13-2

TEL 06-441-0033

FAX 06-445-8871

東京スタジオ 〒167-0043 東京都杉並区上荻2-37-13

TEL 03-3397-8004

FAX 03-3397-0461

全国、どこでも取付工事ができます。

**お気軽にお電話下さい**